

令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援 補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社SPLYZA

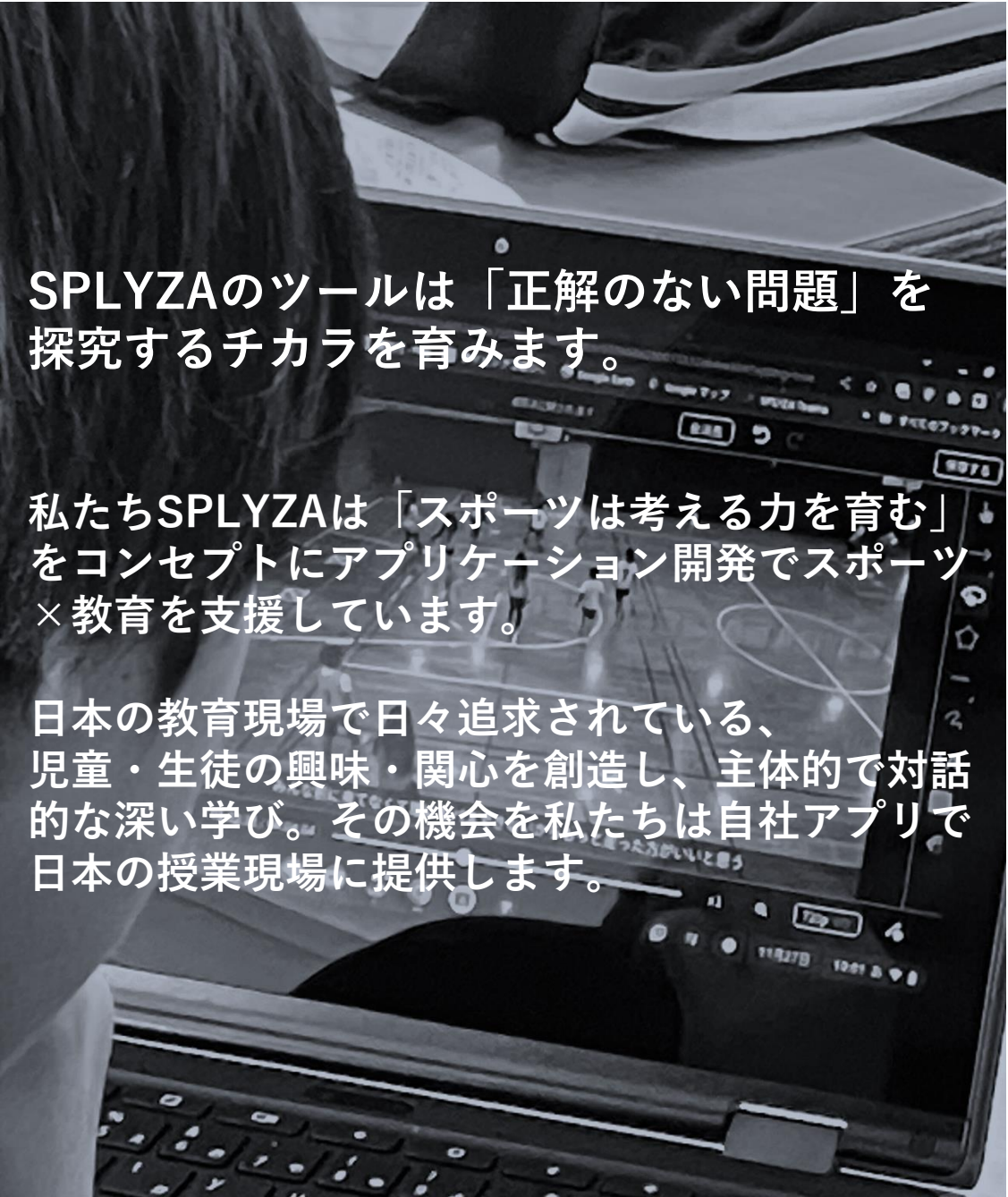
【サービス名称】

SPLYZA Teams (スプライザチームズ)

【サービスの機能分類】

区分A-1 メインサービス

2024年1月



SPLYZAのツールは「正解のない問題」を探究するチカラを育みます。

私たちSPLYZAは「スポーツは考える力を育む」をコンセプトにアプリケーション開発でスポーツ×教育を支援しています。

日本の教育現場で日々追求されている、児童・生徒の興味・関心を創造し、主体的で対話的な深い学び。その機会を私たちは自社アプリで日本の授業現場に提供します。

【SPLYZA Teamsとは】



考える力を身につけ共通理解を高める教育ツール。
デバイス問わずにいつでも授業映像の共有・分析・コミュニケーションを行うことができ、授業受講者のみが閲覧・編集出来る機能を持ち、**課題発見から課題解決までを生徒主体でおこなえるツールです。**
体育授業のみならず、学校生活における映像での振り返りシーンで利用いただいております。

【サービスの特徴】

製品	クラス共有機能	一つの映像に同時編集 (描き込みなど)	映像の時間に タグ付け・描き込み機能	体育必須の コマ送りや拡大機能	2画面比較
SPLYZA Teams	○	○ 全員が同じ動画に 同時編集可能	○ 編集後クラスや学年全員に 共有可能	○ コマ送りやコマ戻しが キーボードでも簡単にできる	2024年度完成 予定
授業支援サービス	○	×	×	×	×

【サポート内容】

先生と生徒への説明会の実施：現地もしくはエリアによりzoomを活用し利用方法の説明会を実施します。

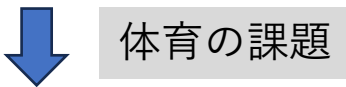
保守メンテナンスと不具合対応：常駐スタッフが対応しています。外注での開発はおこなっていません。

問い合わせ対応：先生が希望する連絡方法で問い合わせ対応をおこないます。会社HPにも問い合わせページやLINEグループ対応もおこなっています。

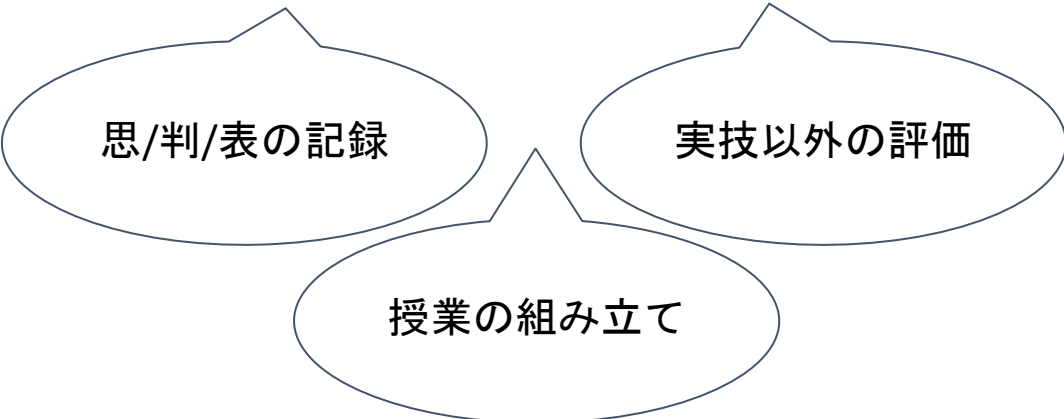
資料作成と改訂（アップデート情報提供）：利用方法の資料提供をGoogleスライド経由でおこなっており、常に最新の情報を見れるようにしています。またヘルプページも動画付きで充実させています。

【抱える課題】

学習指導要領改定に伴い、「観点別学習状況の評価」が導入され、「できる」,「知っている」だけではなく、プロセスの評価（「思考力」,「判断力」,「表現力」）が重要視されるようになりました。さらには主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善が求められています。



指導・評価のポイントが膨大に…。生徒が主体的に考える/対話的な授業の環境づくりが難しい…。



<出典・引用>
小学校学習指導要領解説体育編
新しい学習指導要領の考え方(文部科学省)

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか **どのように学ぶか**

**新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し**

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない※

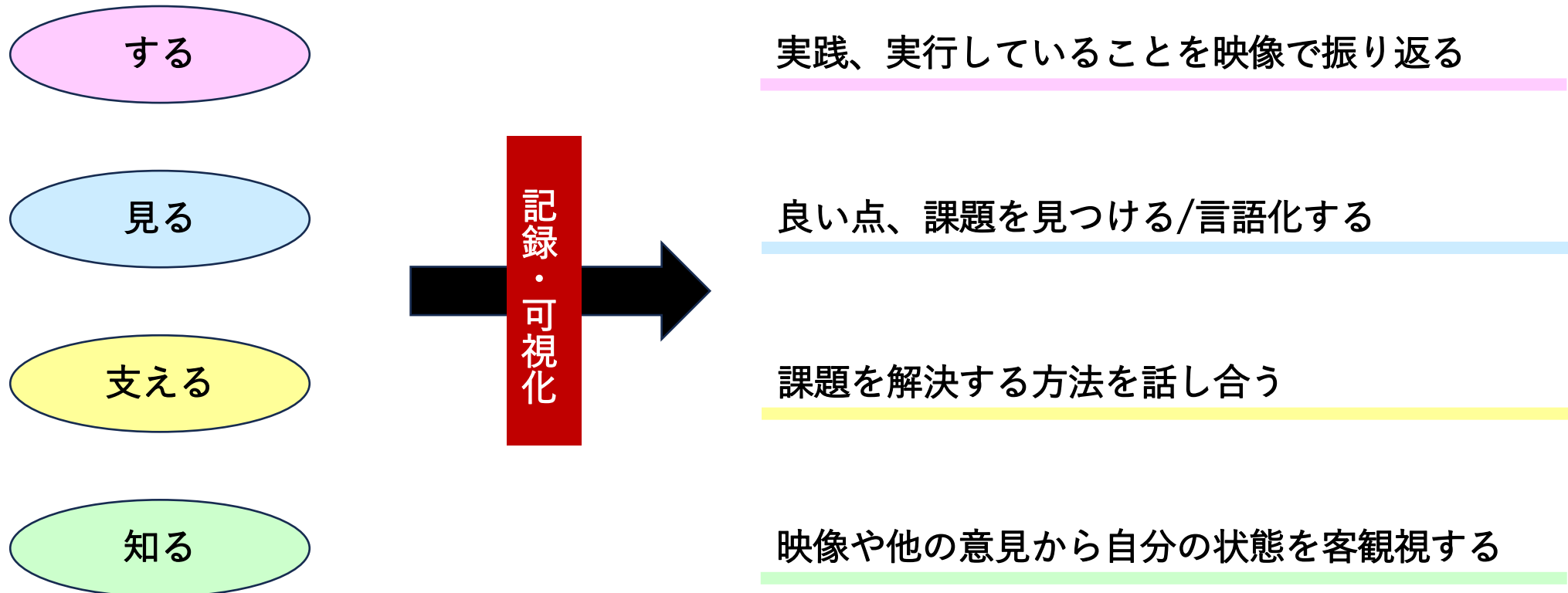
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

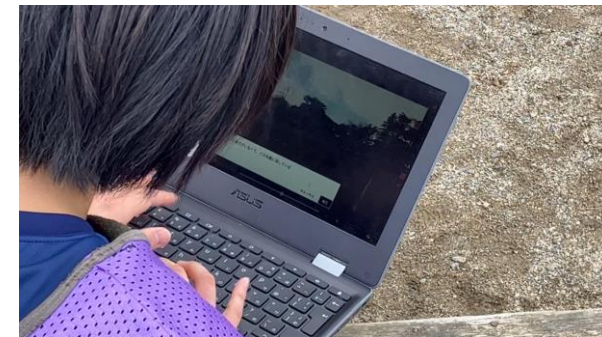
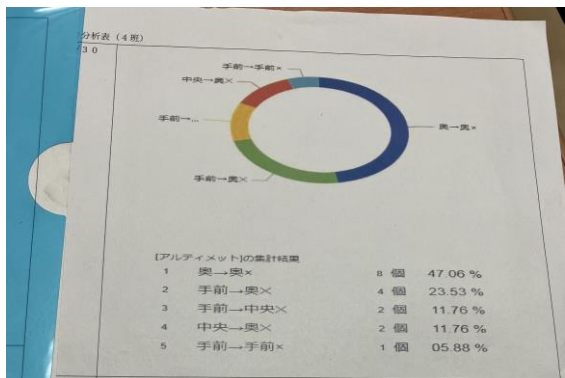
【SPLYZA Teamsのアプローチ】

「する」「見る」「支える」「知る」それぞれの観点から生徒の活動を記録・可視化し、生徒個々に合わせた指導(個別最適な学習)をしていくことが、体育への深い学びとスポーツの楽しさの発見に繋がると考えられます。弊社ツールが”プロセスの評価及び主体的・対話的で深い学びの実現”をサポートさせていただいております。



【SPLYZA Teamsを用いた振り返り】

信州大学教育学部附属松本中学校1年生 アルティメット 授業の最初と最後にSPLYZA Teams活用



①前授業振り返りと課題共有 (5分)
前の授業でタグ付けされたデータや描き込みを元に先生が今日の見通しを発表。



②準備→実践→振り返り→実践 (35分)
余ったメンバーがタブレットで撮影。終了後作戦盤を使い次の試合に向けた作戦会議。



③今日の振り返り (10分)
撮影した映像をアップロードし、描き込みとタグ付けをして授業終了。

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

【SPLYZA Teamsを用いた振り返り】

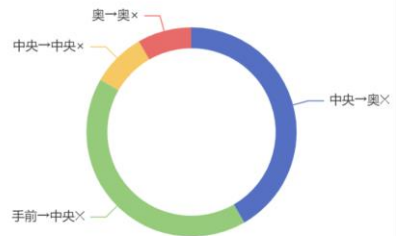
信州大学教育学部附属松本中学校1年生 アルティメット 授業の最初と最後にSPLYZA Teams活用

タイムフレーム

- 02:42:53
- 02:53:90 手前→中央×
- 03:00:63 手前→中央×
- 03:12:03 手前→中央×
- 03:33:03 手前→中央×
- 03:39:80 手前→奥×

時間に対して描き込みタグ付けが可能

このディフェンスが少し浅いから□と□さんはこの二人をマークしたほうがいい

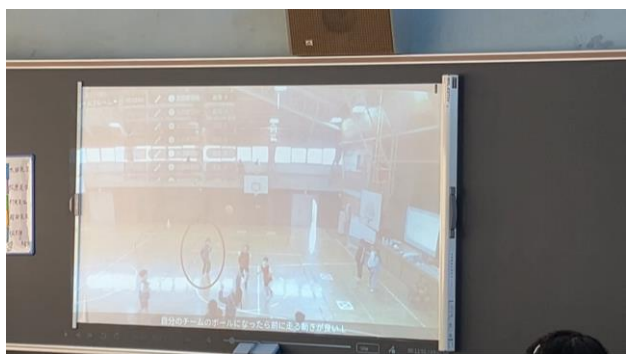
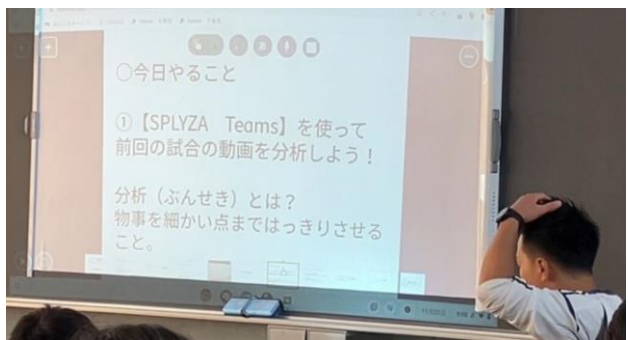


video_ti	subtitle_text
0:00:23:86	扇形が崩れて、パスがなかなかから周りをもうちょっと見たほうがいいと思った。
0:00:47:86	おうぎ形が大きすぎる。角度が、最大90度ぐらいのおうぎ形をつくれるといいと思う。
0:03:23:90	よっしーもロングパス上手だし、かおもキャッチが上手だから、もっと離れてパスをしてもいいと思う。
0:03:42:40	狭くなっているからなるべく広がったほうが良いと思う

タグ付けはAさんは0分から1分、Bさんは1分から2分…といった形でチーム内で分担して同時にタグ付け。タグの内容はグラフでも見れる。コメント内容はExcelに出力も可能。

【 SPLYZA Teamsを用いた振り返り】

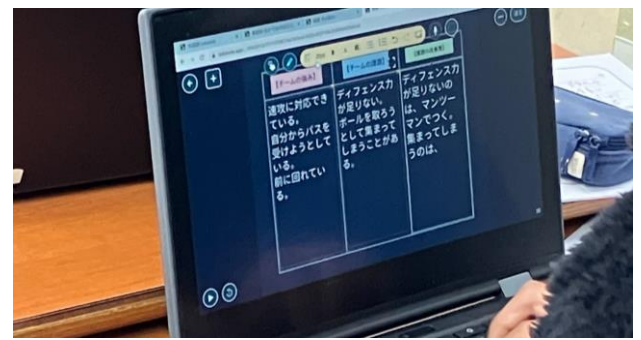
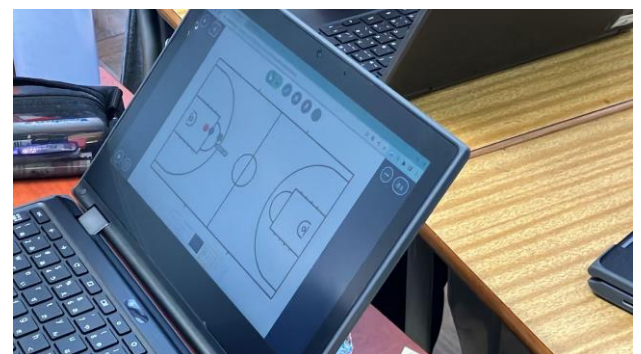
葉山町立長柄小学校 6年生バスケットボール授業 1時間分析の時間



①めあての共有 (10分)
分析をする意味、SPLYZA Teamsを使う意味を先生から説明。先生のお手本描き込みも共有。



②振り返り (25分)
個々で前回の試合をSPLYZA Teamsを使いながら描き込みで振り返り。



③作戦会議 (10分)
書いた内容はチームメンバーは見れるため他者の意見も参考に他のツールも使いながら次の試合に向けた作戦会議。

【 SPLYZA Teamsを用いた振り返り】

葉山町立長柄小学校 6年生バスケットボール授業 1時間分析の時間



スペースに対する記述や固まりすぎているといった映像を見て認識したことを反省として書くことが多かった。アダプテーション（自分たちで決めたルール）に対する記述もありそこから次への改善を話していた。

【導入実績】

- ・ 小学校

葉山町教育委員会（学校数：1校）

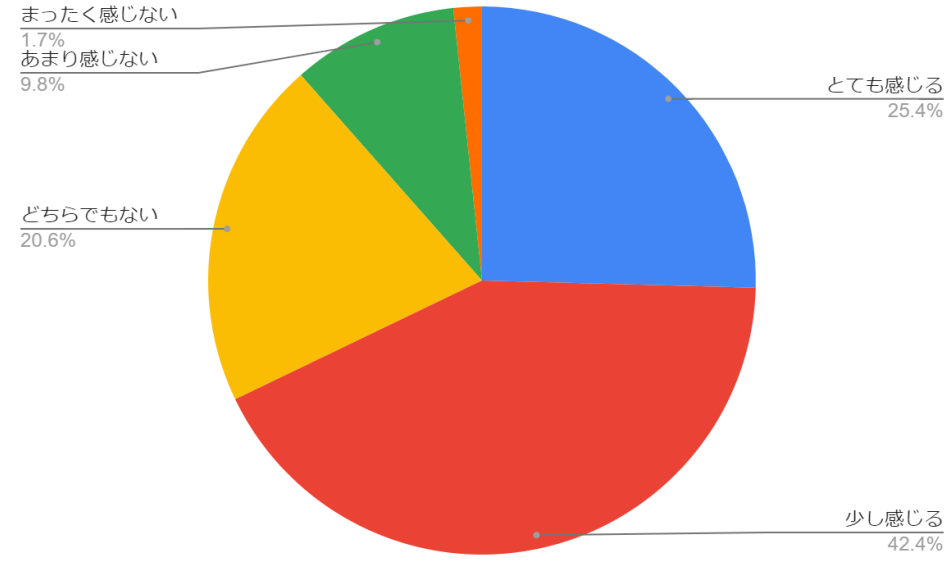
つくば市教育委員会（学校数：1校）

- ・ 中学校

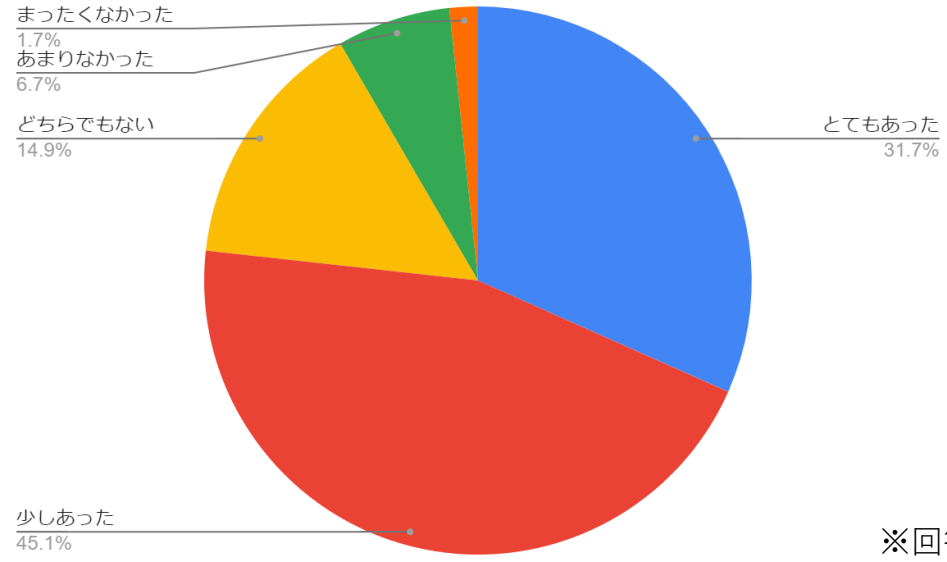
国立大学法人信州大学（学校数：1校）

【活用効果】生徒

SPLYZA Teamsでのふりかえりを行うことにより、これまでよりも「体育が楽しい」と感じますか？



友達のタグやコメントで新しい気づきがありましたか？



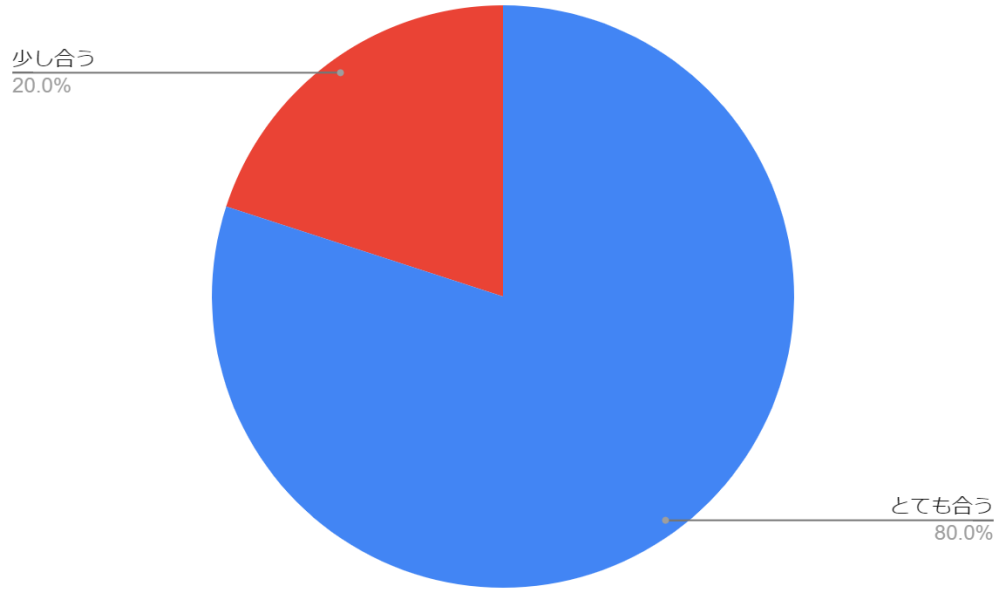
※回答数417名

<左グラフ> SPLYZA Teamsを用いた体育はこれまでの授業よりも67.8%の生徒が楽しいと感じてくれた。楽しいと感じなかった生徒コメントでは「運動をもっとしたかった」という意見が多く振り返りと実技のバランスを考えなければいけないと先生からのコメントもありました。

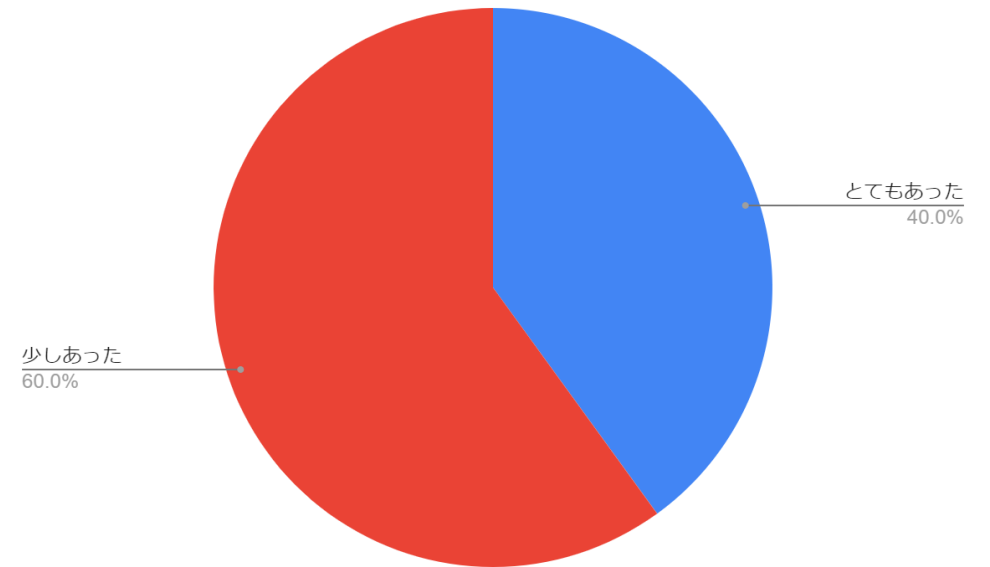
<右グラフ> 76.8%の生徒が友達のタグやコメントで自分では気づけない新し気づきを発見することができた。今までは体を動かして終わり、もしくは動画見て終わりだった体育から一歩進んだと先生からもコメントいただけました。

【活用効果】先生

SPLYZA Teamsを用いた体育は新指導要領に合っていると思いますか



生徒のタグやコメントで新しい気づきがありましたか？



※回答数5名

先生へのアンケートにより『する』以外のところへのアプローチがすべてでき新指導要領に合うツールということが証明された。

また生徒のコメントの質が先生たちが思っている以上に高く、「教科書や参考動画がなくても生徒のコメントで課題を提供できたり見通しを立てることができた」というコメントもいただけた。

【実際に直面した課題と改善策】

①Microsoftアカウントとの連携がなかったためログインに手間取った
ログイン時にGoogleアカウント、AppleIDアカウントとの連携はできていたが、Microsoftアカウントとの連携ができていなかったためメールアドレスとランダムのパスワードを渡したが、特に児童で入力ミスによるログインできない問題が発生した。

→2024年度にはシステムのアップデートで連携予定

②撮影の質（場所、生徒、カメラ）

校庭でのアルティメットやサッカーでは平面からの撮影になり見えづらい映像になっていた。

撮影自体もパソコンの重みで手元が安定しない生徒が多かった。PCに関しては画質が良くない。

→学校には撮影用の三脚がほぼないことがヒアリングや見学でわかった。三脚を使うことで一定以上の高さで安定感が出る。4m以上の高さが出せるBi Rodもおすすめした。

【実際に直面した課題と改善策】

③運動量の確保

振り返りの時間よりも運動量の確保を優先する先生が多い。2学期の単元にもよるがこれが原因で利用が進まなかった学校もあった。

→新指導要領が広がることで、体育の中にも探究活動や横断型の授業の提案ができてくる。今回のアンケート結果で生徒は振り返りを楽しんでいることをウェビナーなどで周知していきたい。

④授業で使おうと構想はしていたものの1, 2回使って終わった学校があった。行事も多い4ヶ月間だったため先生の手がまわらなかった。

→授業に落とし込むのであれば1年間のトライアルも検討しなければならない。また競技ごと、学年ごとの事例をたくさん作り先生と単元計画の段階から相談できる体制を整える。

【教員コメント】

新指導要領について

SPLYZA Teamsを活用することで、運動の楽しさや喜びをこれまで以上に味わうことができた児童が多かったと思います。中には有効性をあまり感じられない児童も見受けられましたが、操作に不慣れなことや活用期間が短かったことが考えられるため、継続的に使っていくことで、授業の質は上がり、児童の能力は高まっていくと考えます。

技能上達について

今回の授業のめあては『誰もが活躍できるバスケットボール』でした。児童が自分のチームの動きを動画で分析すると、活躍している人とあまり活躍していない人があきらかになり、チームみんなが活躍するためにはどのように動いたらいいか、どうパスを回していけばよいか、考えて次のゲームに挑む姿がどのチームからも見られるようになりました。技能が急激に高まったわけではありませんが、動きに変化が生まれ、これまで活躍できなかった児童にも満足感が生まれ、バスケットボールが楽しいと感じられたようでした。

【教員コメント】

新しい気づき

- 動きを分析して、課題を見つけるコメントはもちろんですが、友だちの動き方を評価し、褒めていくコメントがとてもよかったです。
- 内容的の部分ではないが、普段あまり運動で目立たない児童が、よく考えて授業に取り組んでいた事。

楽しかったエピソード

- コメントを見合って一喜一憂している生徒同士の関り。
- バスケットの授業で動画分析をしたあとに、チームで作戦ボードを使いながら、動き方の確認をしている姿はプロのチームがやっているように見えてすごいなあと感心しました。
- 生徒たちは、はじめのうちはコメントだけ書き込んでいましたが、慣れてくると矢印や図形などを自由に使い、書き込みを用いて説明するようになっていきました。運動の見方が成長していることを実感できて楽しかったです。

【生徒コメント】

ポジティブなコメント

- 今まで自分が気づかなかった楽しくなる秘訣を見つけられるから楽しかったです（児童）。
- 友達のアドバイスを貰って、それを参考にしてみたら、できなかったものができるようになった（児童）
- 友達と最初のときの動画と最近の動画を比べるのが、上達した感じがあって、楽しいと感じた（生徒）。
- 動画を見て、場面ごとに○×で考えたり、良かったところは赤、改善点は青で表示するなど工夫することもできるのでプレーを細かく改善して行くことができた（生徒）

ネガティブなコメント

- SPLYZA Teamsを使う時間が長くなってプレーする時間が減るから（小中高）。
- まだ使いこなすのが難しい（小中高）

会社名	株式会社SPLYZA
設立	2011年5月2日
資本金	1億円
役員	代表取締役：土井 寛之 取締役：安東 清文 取締役：ジョー・ウォーラー
従業員数	35人
売上高	130百万円
所在地	〒430-0805 静岡県浜松市中央区相生町16-13 TEL: 053-523-7719 FAX: 053-523-7729
取引先	NTTドコモ Apple Inc. さいたま市教育委員会 学研ホールディングス 日本スポーツ振興センター 山口県スポーツ協会

担当窓口 エデュケーションセールス 丸井剛
academic@splyza.com